

超高耐候・耐汚染性塗装仕様
パイロキープTS2000
TS-FXクリアー仕様

規格適合品

- * JWVA K 143
- * 厚生省令 第15号
- * 厚生省令 第20号

施工要領書

2012年7月作成

株式会社シリカ・ジャパン

1. 使用材料

品名	成分	荷姿	用途
パイロキープ TS2000 プライマーM	アクリル 変性シリコン系	10kgセット（主材：7kg/缶、 硬化剤：3kg/缶）	プライマー
パイロキープ TS2000	アクリル 変性シリコン系	10 kgセット（主剤：7kg/缶、 硬化剤：3kg/缶）	上塗材
パイロキープ TS-FX クリアー	シリル化フッ素系	10 kgセット（主剤：6.5kg/ 缶、硬化剤：3.5kg/缶）	クリアートップ材

(1) プライマー

メーカー セラスター塗料株式会社

商品名 パイロキープTS2000プライマーM

（チタン酸カリウム・アルミ粉入り特殊成シリコン系）

有機溶剤の種類 主剤・硬化剤：第4類第2石油類

規格 10kgセット又は4kgセット

(2) 上塗材

メーカー セラスター塗料株式会社

商品名 パイロキープTS2000

（チタン酸カリウム入り特殊変成シリコン）

有機溶剤の種類 主剤・硬化剤：第4類第2石油類

規格 10kgセット又は4kgセット

(3) クリアートップ材

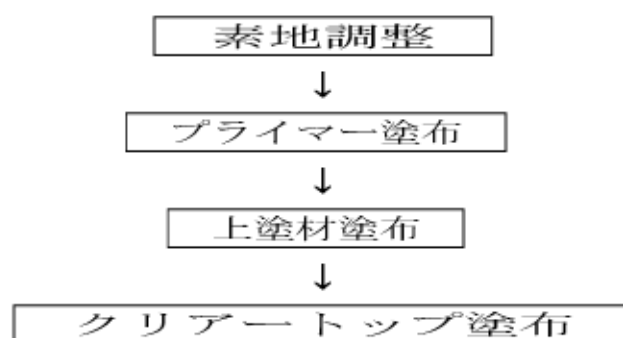
メーカー セラスター塗料株式会社

商品名 パイロキープTS-FXクリアー（シリル化フッ素）

有機溶剤の種類 主材・硬化剤：第4類第2石油類

規格 10kgセット又は4kgセット

2. 1. 施工順序



2. 2. 施工方法

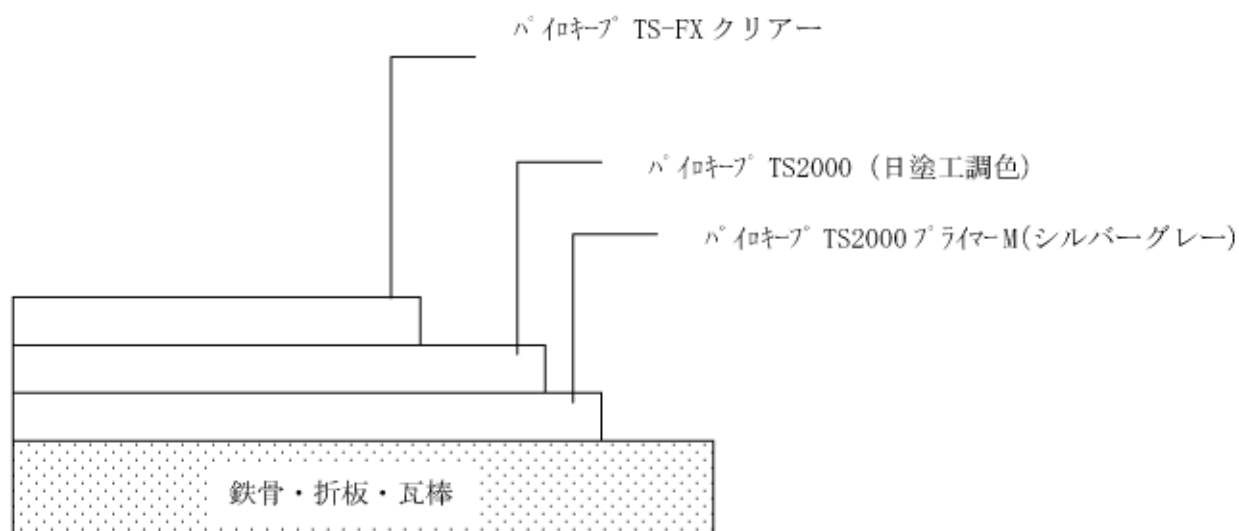
工 程	使用材料名	施工方法	標準使用量 (kg/m ²)
下塗り (シルバーグレー)	パイロキープ TS2000 プライマー M	パイロキープ TS2000 プライマーMを規定の配合で充分混合後、ローラーや刷毛等にて均一に塗布する。	0.15
上塗り (指定色)	パイロキープ TS2000 指定色	下塗りの硬化状態及び表面状態を確認し、異常が無ければ、パイロキープ TS2000 指定色を規定の配合で充分混合後、ローラーや刷毛等にて均一に塗布する。	0.15× 2回塗り
クリアー塗布	パイロキープ TS-FX クリアー	上塗りの硬化状態及び表面状態を確認し、異常が無ければ、パイロキープ TS-FX を規定の配合で充分混合後、ローラーや刷毛等にて均一に塗布する。	0.12

3. 材料配合と施工仕様

工程	使用材料	配合	塗装間隔 (20℃)	標準使用量 (kg/m ²)	希釈率
素地ケレン 清掃	下地面の錆、旧塗膜等はワイヤーブラシ、電動工具等でケレンし取り除く。 ホコリ、ゴミ、油分等も清掃脱脂し除去する。 ケレン後の錆び粉残りは早期点錆び発生の原因となる為、十分に清掃する。				
下塗り	TS2000 プライマー-M	主剤：7kg 硬化剤：3kg	素地乾燥状態で	0.15	0～5%/セット 専用シンナー
上塗り 2回塗り	TS2000	主剤：7kg 硬化剤：3kg	下塗り終了後 6時間以上 48時間後	0.15× 2回塗り	0～5%/セット 専用シンナー
クリアー トップ塗装	TS-FX クリアー	主剤：7kg 硬化剤：3kg	上塗り終了後 6時間以上 48時間後	0.12	無希釈

※TS2000～TS-FX クリアーの塗装でローラー、刷毛塗りの場合は原則無希釈。

特に TS-FX クリアーはダレを生じ易い為、無希釈とする。



4. 施工上の留意点

4. 1. 施工前

施工前に対象金属や素地調整層の表面状態および作業環境についてチェックする。

- ① 前処理、表面処理が完全に行われ、表面が平滑に仕上がっているかを確認する。
- ② 寒冷期の夜間又、高湿度の環境では結露の発生を想定し、施工を午前中に限定する。
又は順延する等の配慮願います。
- ③ 夏場は夜間、虫の付着が想定されます。塗装後の乾燥は遅い傾向にありますので夕方に掛る施工の無い様、施工計画を立てて下さい。
- ④ 特に屋内施工では、溶剤を含む為、作業中は必ず換気を行い安全管理には充分注意する。

4. 2. 施工中

ケレン清掃

ケレン後の錆び粉残りは早期点錆び発生の原因となる為、掃除機・水洗機等を使用し、十分に清掃する。

プライマーおよびトップコートの塗布

1) 気泡の発生防止

泡はピンホールの原因になるため、以下のことを守り、泡の発生を防止して下さい。

- ① 主剤と硬化剤の混合する際はハンドミキサーを用い、1分程度攪拌する。攪拌後は消泡の為5分程度ねかせて下さい。
(攪拌不足は硬化不良や硬化時間遅延の原因になります。)
- ② 夏場の気温が高く素地が熱を持っている場合は、専用シンナーを加え(0~5%)粘度を下げ塗布する。シンナー希釈は、作業性に問題のない範囲で極力少なくし、タレることなく膜厚の確保が出来る様コントロールして下さい。
- ③ ローラーを用いる場合は、できるだけ口径の小さく毛足の短いものを使用する。(無泡ローラーの使用をお勧めします)特に下塗りでは気泡が出やすい為、塗装後、短毛の空ローラー(シンナーのみ含浸)にて泡を潰し、上塗り塗装でピンホールができないよう、施工して下さい。上塗りでも泡残りした場合も同様。

※ パイロキープはシリコン含有量の多い特殊塗料につき、泡切れが悪く乾燥の遅い傾向にあります。

2) 塗り重ね時間

硬化時間は、気温・湿度によって変わりますので注意して下さい。気温が10℃以下では硬化速度が極端に遅くなるので、硬化促進剤を用いて調整する場合があります。促進剤の添加量は1%以内で使用して下さい。また、硬化促進剤を使用すると塗料のゲル化が早くなりますので（冬期2時間程度・夏期1時間程度）、ポットライフを考慮して下さい。作業の兼ね合いで硬化促進剤を使用する場合も同様です。

インターバルのおおよその目安は、	5 ~ 9℃	・・・	6 ~ 24時間
	10 ~ 19℃	・・・	4 ~ 6時間
	20 ~ 25℃	・・・	3 ~ 5時間

3) リコート性（タッチアップ補修等）

パイロキープTS2000、TS-FX クリアーの塗膜はリコート性に優れますが、2日以上インターバルを空けると完全硬化し、付着力の低下につながります。（エポキシ塗料同等）
完全硬化した塗膜への再施工（タッチアップ補修等）は目粗し及びラッカーシンナー等の使用による脱脂が必要です。

4. 3. その他

パイロキープはタックの残っている状況での次工程の塗装が可能です。（床以外）
スプレー塗装を中心にウェットオンウェット塗装は可能です。（タレのでない塗り量の工夫・インターバルは必要）
ローラー刷毛の場合は、引っ張り及びダレがでないようインターバル（最低4～6時間：20℃）を空け塗装して下さい。

以上